

跡見花蹊筆「養老之詩」

養老為名向嘉生金華一山乞
月殊清此好中京天子好半入
竹情半一画情

養老客中一〇占 花蹊書外半一十五五

〔釈文〕

「養老ノ飛泉烟霧生シ 金華山中月殊ニ清シ

此ノ時此ノ景天工ノ妙ナリ 半バ詩情ニ入りテ半バ画情

濃州客中口占 花蹊旧作年七十有五

写真は、大正三年筆、滝の画との対幅で美濃の旅中吟である。

花蹊は本名滝、天保十一年（一八四〇）摂津国西成郡木津村に生れ、幼少より父の家塾を扶けた。学問と書を山陽門の宮原節庵・後藤松陰に、絵画を円山派の石垣東山・榎野楚山・円山応立・中島来章に学ぶ。安政六年父を継いで大阪中之島で塾主となる。以来、京都・東京と居を移し塾の経営に当った。明治八年神田仲猿楽町に跡見学校を創立、学園の基礎を築いた。花蹊は書画の道を通して教育家として生徒生徒の指導に当った。

（史料室太田）